

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3091400063		
法人名	医療法人恵友会		
事業所名(ユニット名)	グループホームなぎの家恵友 ②ユニット		
所在地	和歌山県海南市船尾269-5		
自己評価作成日	平成26年3月27日	評価結果市町村受理日	平成26年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/30/index.php?action=on_kouhyou_detai_1_2013_022_kani=true&amp;i_gyosvoCd=3091400063-00&amp;PrEfCd=30&amp;Versi onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/30/index.php?action=on_kouhyou_detai_1_2013_022_kani=true&amp;i_gyosvoCd=3091400063-00&amp;PrEfCd=30&amp;Versi onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成26年4月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住み慣れた地域の中でゆったりと穏やか暮らす。心身の力を発揮し自信を持って暮らすを理念にもち、利用者様の意向にそって、出来る限りの力を維持し穏やかに暮らして頂くように支援します。まごころを持って、無理強いするのではなく、その時々利用者様の状況や状態に応じ支援できるようにします。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

車の往来の多い道路に面しているが、駐車場の位置や玄関の工夫で、部屋の中は静かである。窓からは近所の屋根や木々の緑が目に入り、街中とは思えない落ち着きを感じられる。母体とする医療法人とのつながりで、医療面だけではない安心感がいたる所に感じられる。また、地域との交流を活発にすることにより、利用者がその人らしい生活ができるように支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は住み慣れた地域の中でゆったりと穏やかに暮らす。心身の力を発揮し自信を持って暮らす。職員間で話し合い共有している。	事業所の出入りに理念を貼り、職員や家族への周知を図っている。開設準備期間に多くの願いを込めて作成したものであるが抽象的な表現となっている。	願いを込めて掲げた理念であるため、年度ごとの具体的な小目標を作ることにより身近なケアに繋がることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会させて頂き、回覧板を利用者様と一緒にまわす。地域の文化祭に入居者様の作品を出展させて頂き一部の入居者様に限られるが当日文化祭を見に行き地域の方々と交流を持つ機会をもつ。	自治会に加入しており、回覧板は利用者と一緒に回すようにすることで、隣近所との交流を持つ機会を作っている。また、幼稚園児の来訪やお花見などを兼ねて幼稚園を訪問するなど日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献としての取り組みはまだ出来ていないが在宅介護に行き詰まり相談された家族様の話に共感し少しのアドバイスでも家族様の不安軽減につながった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の暮らし振りや行事での出来事また事故や苦情についても報告している。感想、意見、提案をお願いしている。	2か月に1回開催している。参加メンバーと予定日時を決めておく等、会議がスムーズに行われるように工夫している。議事録はミーティングで報告するほか、職員の連絡網でも伝えるようにすることで、日常のケアに活かせるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会、高齢介護課の担当者と連携を図り、相談報告しアドバイスをいただくようにしている。	市や社会福祉協議会の担当者からは入居者の情報等と共に、色々な情報を得る事が出来、事業者からは行事や現況を伝える等、協力体制を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動制限を極力少なくし安全面を重視し支援する。玄関の施錠は夜間だけであり身体拘束は行っていない。	法人内や外部の研修により身体拘束をしないケアについての認識は高まっている。出入り口は夜間のみ施錠を行っている。日中、出入り口の近くを通る利用者には、声かけをするなどして、見守りを行っている。職員の多忙な時間には非言語コミュニケーション等を使用しスピーチロックにならないよう、職員間で気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が高齢者虐待防止について、院内研修会や勉強会には可能な限り参加するようにしている。日頃の対応時、言葉がけ等きつくならないように職員間で注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、権利擁護の制度を受けている入居者様はいないが今後、必要となり活用できるように書物等で確認したり職員間で話し合うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章と口頭にて説明し納得して頂くようにし、家族様の不安や疑問点につきましても十分説明納得して頂いたうえで契約して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族より申し出があり出来る限り対応する支援を心掛けています。	家族の訪問や面接のきっかけを作るために、利用料は持参していただくようにしている。また、家族との情報交換のために、国際電話をかけるなど、電話での連絡も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行い日々の支援時に生じてくる意見や提案をその都度検討し合うようにしている。参加出来ない職員には申し送りノートを共有している。	職員間の雰囲気が良いので、意見や提案が出しやすい。シフト上、管理者との連絡が取りにくい場合も必ずメモに残して事業所の状態を共有するよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話しやすい環境をつくり、職員の体調や勤務希望の相談を聞き、業務が円滑に行えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習会を、受ける機会を確保している。仕事の悩みを話したり聞いたりし負担を軽減して頂くようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や地域ケア会議に参加し、日頃の仕事の悩みや勉強会の様子を聞く機会を持ち交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様に会いに行ったり、ホームに見学に来ていただき、本人様と話をすることにより知ろうと努めている。日々の支援の中から信頼関係を築いていく様に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とは入居前に見学され面接を行っているが最初から真の想いを表出してくれる事は少ないように思われる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談は担当のケアマネージャーからくる事がほとんどで、家族様と話す時は入居を目的とした相談になっている。入居希望の動機、本人様の状態を探り支援方法を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事、出来ない事を支援する介護を優先し自信を持って生活して頂けるように努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居当初は、利用者様が落ち着かず不安な想いをされていましたが、現状は落ち着かれています。家族様来所時は近況報告しその方の暮らしぶりを知って頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内の方や友人の方がたずねてこられて、お話されています。一部の利用者様で馴染みの美容室にカットに出かけたり、近隣の喫茶店にコーヒーをのみに出かける等家族様に協力して頂いています。	家族が来訪した際になじみの喫茶店と一緒に訪問していただいたり、昔なじみのお寿司屋さんには行事の一環として職員と出かけ利用者に喜ばれている。また、近所の行きつけの美容院には職員同伴で出かける等馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が一人の方に関わり過ぎると利用者間の不和につながる事を認識する。トラブル発生時には職員が間に入り治めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退居された方の、家族様にお会いする時があり元気に過ごされている様子を拝見しています思いで話をさせていただく事もあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	嗜好、帰宅願望等本人様からの明確な表出は難しい事もあるが日々の生活の中で見極め職員間で話し合い検討している。家族様に相談協力をお願いしている。	利用者との話し合いを密にすることで、思いや意向を把握するよう努めている。言葉での意思表示の困難な利用者には表情や反応で察するようにしている。また、職員間でよく話し合い、利用者の状況を共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を得るようにしているが、本人様も覚えていない、家族様も分からない事もあり把握しきれていない事もある。本人様との会話の中で知る事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で体調の異変や変化を見抜きその日その時の状態に合った支援に努める。口頭による申し送りや記録で情報の共有に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの方向性については医師や訓練士等の指示やアドバイスを聞き職員間で話し合い計画に反映している。家族様の想いは職員との会話の中でみ取り計画に入れている。家族様が来所時、計画書の内容を説明するように努めています。	家族と利用者を含め多職間で話し合うようにしている。介護計画は利用者の表情や状態を見てモニタリングし、現状に即した計画が作成できるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に記入し職員間の情報を共有し、話し合いする機会をもち統一したケアが出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他部署の介護、看護、理学療法士、医師等と連携し協力を得ながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様個人の意向としてはないが、地域の婦人会会長さんの協力を得て文化祭へ作品を展示させて頂き参加する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様が納得され、母体が医療法人であり、病院とも併設している。定期的にまた緊急時でもすぐに受診が可能である。	本人や家族等の希望により、利用者全員が母体の医療法人をかかりつけ医にしているため、夜間、緊急時もすぐに対応する事が出来るなど、適切な医療の支援ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院、老人保健施設と併設しており、24時間いつでも相談や協力が得られる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	利用者様が安心できる場所は馴染みの場所である事を理解してもらい、退院後のケアがホームでも可能な状態になれば、早い退院を家族様理解のもと相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の看取りの指針は作成しており、家族様に入居時説明している。利用者様の状況の変化に注意し早い段階で医師と家族様が話会える機会をもち方向性を決めていくようにしている。	入居時に説明し、ご家族も含め話し合いを行っている。ホームで終末を迎えたいという希望もあり、職員は看取りの研修を受け、体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成している、急変時、職員間で声掛けあい早急に対応できる体制をとっている。他の職員には状況や対応等について申し送りしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホームの消防訓練は年2回入居者様と一緒に参加している。地域との協力体制は築けていないが運営推進会議の中で地区の避難場所へ避難するのは難しく、グループホームの屋上へ避難する事を説明している。	年2回の避難訓練を入居者と一緒にしている。地域の高齢者が事業所の避難訓練に参加される等、地域からも信頼を得ており、職員の意識も高い。家族の要望により、大雨などの際は無事であることのメール連絡を行うようにしている。また、水の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	乱暴な言葉にならないよう指導、実践している。記録類は事務所内の棚に保管している。	利用者の部屋は内側から施錠できるようになっている。利用者への言葉づかいについては、職員間で注意しあうようにし、利用者の名は姓で呼ぶなど、なれなれしい言葉かけにならないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの個性や状態に合わせた対応や説明の仕方をしている。職員側から無理強いをしないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを重視し、危険が予測されない限り行動を制限することなく過ごして頂くように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方は居室内のダンス中から衣類等ご自身で選んでおられる、利用者様の好みを聞いて職員が用意している。家族様が来所され髪を切られる方や、職員が美容院にお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の利用者様に限られるが、職員と一緒に野菜の皮むきや一口大にきってもらったりしています、おかずの盛り付けや食器あらいもお願いしています。	献立は栄養とバランスを考え、昼食は肉類、夕食はさっぱりとしたものを中心に担当者も含め、話し合っている。ホールの一角での調理なので、利用者が自分の状況に合わせてできる範囲で準備や片づけ等を手伝っている。また、食事は職員も含めた全員でとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じた食事量を提供しています。食事の間や入浴後に水分摂取して頂いています。毎食の食事量を記録し状況を把握し摂取量が少ない方は医師と相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に誘導し自分で出来るかぎり口腔ケアして頂くように支援しています。食後に緑茶を飲用していただいています。利用者様の義歯は曜日を決めポリドント洗浄をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけて、一人ひとりのパターンを把握し支援しています。紙パンツ利用されている方で日中は可能な限り布パンツで対応しています。	排せつの自立支援が事業所の目標の1つとしており、利用者1人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけの目安としている。夕食前の煩雑な時間も、トイレ誘導を心がけ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では海草類やイモ類、ヨーグルトを多く摂取して頂き、水分量に気をつける。定期的にはトイレ誘導し腹部マッサージ等行うようにしているが、便秘症の方は医師と相談し下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時、一部介助が必要な方には日時を決めて入って頂いています。お風呂嫌いの利用者様がおられます、言葉かけを工夫し可能な限り入浴していただけるようにしています。	利用者の希望に添ったタイミングや回数にあわせた支援を行っている。言葉かけを工夫して、入浴中の見守りや支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝はその方に応じた時間で支援しています。昼食後に自室で休まれる方もおられ、状況に応じた支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様の病状を把握し薬の内容を確認し管理している。症状の変化時は医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来ることを探り支援している。話の中で本人がしたい事や今までしてきた事を聞き支援していく様にしている。本人のペースで無理強いしない様にする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の方ですが、市場やスーパーマーケットへ買い物に行ったり、催し物を見に行けるように支援しています。近隣を散歩します。	日中はホールで過ごされる利用者多くなっているが、毎日の買い物等機会を見つけて市場まで散歩に行く等外出を支援している。普段はいけなような場所へも、利用者の希望を聴き、行事等に組み入れ出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方がお小遣いを持っています、買い物に出かけた時に自分で買い物をされます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話の設備はありません。電話をかけたい時は事務所の電話を使用して頂いています。お誕生日のメッセージや年賀状を家族様よりいただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所や部屋の入り口に名札をつけて分かるように支援しています。リビング内の壁には季節感を感じて頂く為おりがみ等使い飾り物を掛けるようにしている。	ホールには季節感あふれる飾り物や写真等が飾られ、地域の文化祭に出品された利用者手縫いのクッションが実用と装飾を兼ねてそれぞれの椅子に置かれる等、利用者のくつろぎの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや椅子を置き利用者様が座って話ができるように支援しています。リビング内ではテーブルの席をときどき変更し、触れ合いを多くしていただくように支援する。その際は本人様の意思を確認したうえで対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談し居室は入居前の家庭の家具や寝具を持ってきて頂き住み慣れた環境作りを提供する為、協力して頂いています。	居室には利用者本人が慣れ親しんだ家具やベッドが持ち込まれ家族がレイアウトし、居心地良く過ごせるよう、工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の部屋に表札をつける、トイレの方向がわかるように矢印で表示し混乱を軽減して頂くようにする。リビング内にカレンダーを手作りし日にちを確認してもらえるように支援しています。		